みんなの「なんなーの?」を伝えるこども記者のための新聞

信毎こども記者ニュース

■発行／信濃毎日新聞地域活動部　〒380-8546 長野市南県町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193　no.4

くわしく取材 力作ずらり

こども新聞コンクール

「長野県こども新聞コンクール」が10年目を迎え、今年も県内各地の小学生が一生懸命作った新聞がたくさん集まりました。県内6地区で審査会が行われ、北信地区は9月1日に長野市でありました。新聞作りのポイントを審査員に聞きました。記事を書く時の参考にしてね。

地区入賞決まる 10月の県審査へ

北信地区コンクールは64の小学校から、過去最高の2955点の応募がありました。

入賞作品をいくつか紹介しましょう。「内堀大獅子新聞」は3年生の新聞。顔の高さと幅が1・3メートルもある獅子頭は大正から昭和にかけて不況や病気が広がったことからできたことなどを記事にしました。

「地下壕新聞」は長野市の6年生が安茂里の地下壕を取材。太平洋戦争末期に天皇や政府が東京から引っ越すためにつくられた「松代大本営地下壕」のように、海軍が掘っていたことなどを手書きのイラストなどで紹介しました。

県内6地区で選ばれた入賞作品は、10月1日の県コンクールの審査会に進みます。

応募作品の審査風景

審査員に聞きました 新聞作りここが大切! 人に伝えたい気持ちで取材、見出し付け

みんな新聞作りに一生懸命ですばらしいです。読んでくれる人をもっと意識してくれたらもっといい。「ぜひ知ってほしい」という強い気持ち、納得させる工夫を深めてほしいです。

長野市共和小学校校長 原田篤穂さん

いかに取材しているかに注目しています。パンフレットの引用などより現地に行ってほしい。もう一歩踏み込んでねばり強く取材した新聞には感心させられるものです。

信毎夕刊のまんが「ズクたん」作者 西沢まもるさん

新聞は、印象に残る見出しや色づかい、紙面の構成、読みやすさも大事ですね。こどもはいい意味で枠にはまっていないから、私も勉強になりました。

北信ローカル紙面編集担当 渡辺純子さん

今年も力作ぞろいでした。いい新聞は、身近なことでも目の付けどころがいい。字がていねいだったり、手書きのグラフなどがあったりすると、気持ちが伝わってきます。

北信地区実行委員会顧問 山崎宗夫さん

目を引く見出し、分かりやすいレイアウトの後に、いかにおもしろい話が続いているかが大切です。ちゃんと自分で調べ、取材しているかもポイントです。

長野市民新聞記者 綿貫良宏さん

目次と見出しは違います。本文を読まなくても内容が分かり、人がさらに読みたくなるような見出し付けが大切。一番感動したことを見出しにするのもいいですね。

信毎読者センター次長 畑光一さん

こども新聞コンクール 入賞・入選作品展示会日程

北信地区	10/2～9	もんぜんぷら座
東信地区	9/16まで	イオン佐久平SC
	9/25～30	ジャスコ上田店
中信地区	9/17まで	カタクラモール
諏訪地区	※終了しました	
上伊那地区	9/17～20	ベルシャイン伊那店
飯田下伊那地区	9/16まで	ジャスコ飯田店
県コンクール	10/23～28	ながの東急

高遠ブックフェスティバルでこども新聞発行

こども新聞編集部!!

高遠の町を一眼レフ持って こども記者が突撃取材

桜で有名な伊那市高遠町を「本の町」にしようと、8月29、30日に開かれた「高遠ブックフェスティバル」で、県内外の小学生たち12人が「高遠こども新聞」を作りました。

デジタルカメラを下げ、「こども新聞記者」の腕章を付け高遠を取材して歩き回りました。

「撮ってもいいですか」と断ってから、こども記者たちは気になったものを次々にカメラで撮影。満光寺の境内にある大きな松の木に興味を持った春日峻治記者（小学6年）は、お寺の呼び鈴を迷わず押して、突撃取材。突然にも住職さんはていねいに答えてくれました。

完成した新聞は8ページで、120年前の本や道端に咲いていたお花など、写真と記事がいっぱい。新聞は会場で配り、約300部があっという間になくなりました。

みんな最初は一年生

ここだけのヒミツ! ベテラン記者の失敗談

4本目

信毎こども新聞デスク* 井上典子記者

大きな声で「ありがとう」

私、今も失敗の達人ですよ（笑）。たくさんあるので、忘れたことの方が多いかも。今でもよく覚えていることを一つ書きますね。

十数年前、衆院選の取材でした。当選した人のお祝い会場で、そこに顔を出すある人に話を聞くのが私の仕事でした。でも、会場は満員電車のよう。私が近づけないうちに、その人はいなくなってしまったんです。

その人のコメントは、絶対に必要でした。新聞に載せるので、次の日まで待てません。頭が真っ白になりました。もう夜遅かったのですが、恐る恐るその人の家に行きました。でも、まだ帰っていません。その人が顔を出しそうな場所を探しましたが、すれ違いで会えませんでした。

このままでは申し訳ない…。車を運転しながら「事故を起こしちゃうか」「会社をやめよう」と思ったことをよく覚えています。

勇気を出して会社に戻りました。実は、帰宅したその人が、私が探していると聞き、会社に電話してくれたそうで、コメントは後輩の記者が聞いてくれていました。

失敗しない人は偉いです。でも、わたしは失敗してしまう。だから、失敗したらどうするかを考えます。ほかの人の助けが必要ですから、「ごめんなさい」「お願いします」「ありがとう」は心をこめて、大きな声で言うことにしています（笑）。

※携帯もメールもないころのお話です。

*デスク＝記者に取材の指示やアドバイスをして、記者が書いた原稿を直して完成させる人

一日のスケジュールはどんなのなーの? など、信毎の記者に聞いてみたいことがあれば、地域活動部までおたよりをどしどし送ってくださいね。できるかぎり、信毎こども記者ニュースでお答えします。